

メキシコ州投資セミナー

東京、日本、2014年9月19日

本日、当大使館（在日メキシコ大使館）エスパシオ・メヒカーノにて、大使館後援、プロメヒコ主催の「メキシコ州投資セミナー」が開催され、日本企業約 25 社の代表者が参加した。

大使館代表者は、開会の辞で、以下の状況を説明した。すなわち、連邦政府と国内各州政府が、近年、日本でのプロモーション活動を強めており、過去一年間に全土を構成する 32 州の 1/3 にあたる 11 州の政府代表者が訪日するまでになった。また、両国間の貿易と投資の実績は史上最高の水準にある。過去のセミナー同様、大使館代表者は、メキシコの提供する数多くのメリットを強調し、既に 800 を超える日本企業が良好な投資環境を活用してメキシコに進出していることに触れ、今回の参加企業もこれらの前例に続くよう促した。

メイン・プレゼンテーションを行なったメキシコ州政府のアドリアン・フエンテス・ビジャロボス経済開発局長は、同州の利点である (1) 地理上の戦略的ロケーション、(2) 国内最大の消費市場、(3) 進歩的な政府、(4) 技術開発における高い潜在力、(5) 専門性を有する労働力、(6) 道路、鉄道、空港などの良好なインフラ環境があるものの、更なる整備をめざす多数のプロジェクトを実施予定の州である点を強調した。また、同局長は、海外からの投資にチャンスのある 5 つの主要産業を列挙した。(1) 自動車、(2) 食品飲料、(3) 化学・製薬、(4) 繊維、(5) 観光である。

今回のセミナーは、同州政府職員 6 名で構成された訪日ミッションの日程でほぼ最後を飾る活動であった。滞在中には、日本貿易振興機構（JETRO）、経団連、国際協力機構（JICA）、日本自動車部品工業会（JAPIA）の他、学術及び政治関連の交流活動として筑波大学や埼玉県を訪れ、会合をおこなった。9 月 18 日には、アルマンド・アリアガ・オチョアテギ臨時代理大使が、同ミッションの団員を招いて歓迎レセプションを開催し、館内の経済・政治・報道各部担当者と懇談する機会を提供した。



メキシコ州投資セミナーの参加者